

地方
小出版

情報誌

アクセス

毎月1回 1日発行
購読料 定価 150円
(本体 136円)
年間 1,500円 (税込み)
振替 00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

設立50年を迎えた水俣病センター相思社の取り組み 紙芝居で伝える水俣病

文/水俣病センター相思社 職員 小泉初恵

水俣病センター相思社

水俣は、熊本県の最南端、かつての薩摩藩と肥後藩の国境に位置する。穏やかな不知火海は天草の島々に囲まれ、海と向かい合うような斜面には柑橘畑が広がっている。そんな不知火海の見聞の集落で水俣病が確認されたのは、今から70年以上も前のことだ。

水俣病の原因物質であるメチル水銀は、チッソ水俣工場のアセトアルデヒド製造工程で発生し、排水に混ざって水俣湾に流された。海辺に住む人たちは魚介類を主食のように食べて暮らしていたため、汚染によるメチル水銀中毒で身体が思うように動かせなくなったり、しびれや感覚障害など治ることのない症状に苦しんだ。そんな水俣病患者たちは、初期の頃は奇病と言われて避けられ、裁判提訴後は「金目当ての二重患者」といった言葉が投げつけられた。水俣病の被害は身体的な苦しみにとどまるものではなかった。精神的な苦痛や地域のわだかまりも簡単に癒えるものではない。

チッソが製造していたアセトアルデヒドは高度経済成長期の製造業に欠かせないプラスチックの原材料であり、水俣病は日本が経済的に豊かになった陰で発生した。その意味で、今を生きる私たちも水俣病の発生と拡大によって利益を得ていると言っても過言ではない。

水俣病センター相思社（以下、相思社）は、水俣病の第一次訴訟の勝訴判決の翌年の1974年に、水俣病患者を支援するために設立された団体であ



1974年水俣病センター相思社落成式であいさつをする水俣病患者



近年のみかん出荷風景

る。裁判後の水俣病患者たちの拠り所として、水俣市南部の住宅地を抜けた小高い場所に作られた。患者と支援者が一緒に働くキノコ工場や診療所として使える建物も建てられた。患者の認定を求める患者の運動の中心にもなり、水俣湾の埋立工事が行われている頃は独自に環境調査をするチームも結成された。患者の生活を支えるために始まった甘夏みかんの販売は、患者関係者だけではなく若い生産者やお茶なども扱うようになり、環境に配慮した水俣の農産物を「味わうこと」を通して感じる・知ってもらうツールにもなっている。

水俣病を伝える活動

今年で設立から50年が経過し、紆



水俣病歴史考証館 館内

余曲折を経て、現在の活動は「水俣病を伝える」ことが柱になっている。

1988年には、水俣病患者が働くキノコ工場だった建物を改築し、敷地内に水俣病歴史考証館が開館した。患者や地域住民から譲り受けた漁具をはじめ、多くの実物が展示されている。展示以外にも、刊行物から手書きのメモまで様々な水俣病関連資料のアーカイブ化を行っている。さらに、学習や研究のために訪れる人たちの宿泊の受け入れやフィールドワークのコーディネートや現地ガイドも行っている。



水俣湾埋立地フィールドワーク

他にも、今も水俣病患者からの相談を受け、必要な支援や窓口につないだり、聞き書きなどの記録を作る活動も行っている。

患者や関係者らは歳を重ねており、初期を知る人たちの多くはすでに亡くなっている。水俣に来たときは青年だった支援者でさえ既に70代が多い。講話やガイドで主力となって活躍している彼らの語りは力があるが、いつまでも頼ることはできない。患者や関係者がいなくなった後にも学ぶことができるように、なるべく早く仕込みを始

めなければいけない。

しかしながら、水俣市立水俣病資料館や行政が行っている啓発事業はあるものの、地元自治体や多くの地域住民にとって水俣病は積極的になりにくいトピックであることは変わりなく、工場の企業城下町に特有の難しさもある。そのため、水俣病のことを伝える活動は地域全体に広がっているわけではないが、今回の紙芝居の制作に協力をしてもらった「水俣病を語り継ぐ会」も朗読講座や発表会を行っている。

紙芝居プロジェクト

水俣病の名前を多くの日本人が知っているのは、小学校でいわゆる「四大公害病」の一つとして取り上げられているからだ。詳細を知る機会はなくとも、原因物質、地域、原因企業などを暗記した人は多い。現在でも、小学校の社会科で公害について学ぶ単元があり、熊本県内では小学校5年生が必ず水俣に遠足にきて展示見学と語り部の話を聞くことになっている。そのため、授業で教える前に水俣を訪れる学校教員も多く、見学に来た教員から「何か教材にいい資料はないですか」と尋ねられることは相思社でも多かったが、適当なものがなかった。

現状や学校での課題が知りたくて学校の先生たちにヒアリングを行ったところ、学校現場は本当に忙しいようで、1つの授業のために書籍を読み込んで教材作りに時間を割く余裕はない。先生自身が水俣病に出会い、学び、クラスの人たちに伝えるように工夫して授業にしてもらうのが理想だと思うが、現状では難しそうだ。

先生にとっては水俣病の授業を充実させるお手伝いのために、生徒にとっては水俣病から学ぶ経験をより豊かに



地域のイベントで上演する筆者



【みつこの詩】表紙
吉永理巳子・奥羽香織文、上月ひとみ絵
水俣病センター相思社刊/定価(本体3300円+税)/ISBN978-4-9913247-1-0



みつこの詩場面13
水俣病で亡くなった夫と義父に手を合わせるみつこ



【しらぬいさん】表紙
小泉初恵文、間中ムーチョ絵
水俣病センター相思社刊/定価(本体3300円+税)/ISBN978-4-9913247-0-3



しらぬいさん場面6
「今日も大漁じゃ」

するために、水俣で何ができるだろうかと考えた時、戦争体験から学ぶ教育的な取り組みは参考になるかもしれないと思いついた。戦争も生存者は限られ、高齢化は避けられない。今も学び続けることは重要だが、「負の記憶」と呼ばれる難しさも共通している。水俣病と比べると10年ほど先の未来を見ているようだ。沖縄の対馬丸記念館やひめゆり平和祈念資料館に押しかけ、実践している紙芝居や絵画表現による記録活動について教えてもらった。しかし、私個人も、相思社も、周囲の水俣病関係者も、紙芝居などこれまでに作ったことがなく、今となって思えばビギナーズラックのような幸運が重なって紙芝居プロジェクトは走り出した。

水俣周辺にぴったりの絵を描いてくれる人が見つからず、たまたま水俣に通っていた大学生経由で関西のギャラリーに紹介してもらい上月ひとみさん、間中ムーチョさんと出会うことができた。編集には、童心社の紙芝居の編集を長年されていた日下部茂子さんが入ってください、絵と脚本を行ったり来たりしながら紙芝居として見るに耐えうるものに仕上げてください。そうして、最初から最後まで多くの人の助けを得て2つの紙芝居「みつこ

の詩」と「しらぬいさん」は完成した。学校で活用するためには電子黒板で使えるようにしてほしいと先生から意見をもらい、ウェブサイトではPDF版、動画版、関連情報をまとめた資料も一緒に公開している。ぜひ多くの人に紙芝居を活用してもらえたらありがたい。

紙芝居「みつこの詩」

「みつこの詩」は語り部をしている吉永理巳子さんの母親の大矢ミツコさんの物語だ。チツソの排水口からほど近い沿岸部の集落へのみつこの嫁入りの場面から始まり、不慣れだった漁師の暮らしにも馴染み、5人の子供も生まれた。その頃、魚が海に浮かび、猫が帰ってこない異変に気が付き、ついに夫も原因不明の病気で入院してしまう。夫と義父を水俣病で亡くしてからは、朝から晩まで働いて家族を支えた。耕運機で足を失う経験もしたが工夫をしながら畑仕事を続け、みつこは常に前を向いて94歳まで生きた。

この物語が伝えるのは、水俣病の苦しみだけではない。水俣病に翻弄されつつも水俣の海辺で生き抜いた女性の生き様だ。当たり前ではあるが、水俣病の患者やその家族にも、水俣病以外の人生が続く。そんな人生の厚みを感じ

じてもらいたいと考えた。

ありがたいことに「みつこの詩」は優れた紙芝居に送られる五山賞を受賞した。「語り部の口調が心地よい」「命について考える教材として使うことを願う」と評価をいただいた。

生前、用事があってご自宅にお邪魔すると、ご飯は食べたの？とミツコさんは毎度のように聞いてくれた。そんなミツコさんの人間のあたたかさが伝わるような水俣弁の柔らかい響きを、演じる人も聞く人もぜひ楽しんでもらいたい。

紙芝居「しらぬいさん」

もう一つは、不知火海を主人公にした「しらぬいさん」という作品だ。

しらぬいさんは穏やかな海で、中にはたくさんの生き物が住んでいる。魚をとって暮らす人々も水俣にやってきた。しかし、町に工場ができてからしらぬいさんは色もおかしくなり、具合が悪くなり、魚たちは死んでしまうようになった。人々も漁に行かなくなり、やがてしらぬいさんの一部が網で仕切られて埋められてしまう。見た目は美しい公園に変わった水俣湾の埋立地がどんな場所なのかを伝え、命をどうつなぐか考えてほしいとしらぬいさんが語る。

絵本作家の間中ムーチョさんが不知火海の水で溶かした絵の具で描いた絵は明るく、見ているだけで楽しく、小学生以下の子供たちの反応はとても良

い。

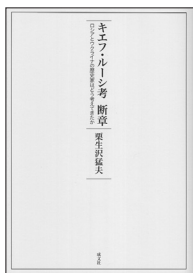
水俣病は人間と自然の関係が壊された出来事であり、自然の時間は人間の時間よりもっと長い。水俣の対岸の離島では白亜紀の化石が発掘されており、不知火海に不知火海という名前がなかった時代からここには生き物が住んでいた。人間ではなく不知火海の時間軸で、太古の昔から未来まで続いていく海と町を、擬人化させて捉えてみたが、どうだろうか。声のないものに声を与えることで作り手の意図が透けて見えすぎてしまい、物語としてはもう少し工夫が必要だったかもしれない。みなさまからの感想を待ちたい。

(こいずみ はつえ/水俣病センター 相思社 職員)

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『キエフ・ルーシー考 断章—ロシアとウクライナの歴史家はどう考えてきたか』 ●栗生沢猛夫 著



ロシアのウクライナ侵攻が始まる半年前、2021年7月に公表されたプーチン大統領の、「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について」と題する論文に注目した人はどれほどいたのだろうか。本書の読者にはまず、巻末付録のこの論文と解説から読むことを勧めたい。

論文前半は、ロシアとウクライナは、キエフ・ロシア(9~12世紀)を原初として一つの全体を成すと、ロシアの伝統的歴史観を強調する。前半の執筆は大統領本人ではなく、歴史家の代筆と著者は推測する。後半は現在の政治的立場が表明されている。近年西側諸国は、ロシアと緊密な文化・宗教・経済関係にあったウクライナを危険な地政学的賭けに引きずり込み、ロシアに対する橋頭保に変えようとしていると激しく非難する。侵攻開始の大義名分は、ウクライナで迫害されてい

るロシア系住民の解放であったが、本音がすけてみえる。ロシア中世史が専門の著者は、侵攻の背景に複雑で相容れない歴史観がある事実直面し、自らのロシア史認識に重大な欠陥があったのではないかと衝撃を受ける。そこで、ロシア史学と、真っ向対立して独自性を主張するウクライナ史学も併せ、近代史学が成立する17世紀に遡り、膨大な資料を丹念に読み解き、言語の同異性や、大ロシア・小ロシアと呼ばれた時代状況を掘り下げるなどして、両史学の形成と浸透の過程を批判的に検証する。独善的で狭い民族主義に固執しては解決の道はなく、軍事衝突が両国の歴史観に、さらに深刻な影響を与えやしないかと懸念する。(飯澤文夫)

◆ 3300円・A5判・310頁・成文社・神奈川・202404刊・ISBN9784865200676

『花いちもんめ 新装版』 ●石牟礼道子 著

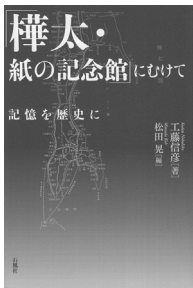


本書は平成11年5月から同17年3月まで、「ちょっと深呼吸」のタイトルで朝日新聞西部版に連載されたリレーエッセイを再構成したものの。2005年に初版が刊行され、その後品切れとなっていたが、今回新装版となって改めて刊行された。今回新たに巻末に、石牟礼さんがかつて暮らした水俣の家で昨年開業した書店「カライモブックス」を営む奥田夫妻のエッセイ『白浜の家』『水俣大橋まで、あと五分』が掲載されている。著者は連載時七十代。本書後半になるとその連載時の著者の生活風景がちらほらと垣間見えるようになる。ガーガーと異音がして映らないテレビに、ウイルスというやつが入り込んだのかなどと妄想したり、あまりの猛暑にさかんに暑い、暑いと繰り返したり。だがやはり、珠玉と言えるのは、幼少

期・少女期を回想して描かれた、昭和初期の「母郷」の風景であろうか。お供養ごとの台所に集まった近隣の婆さまや女房たち。また近くの小川は村の女子衆の洗濯場となって賑わい、その前後で子どもたちが貝やエビを捕っている。色鮮やかに印象に残るのは、近くにあった妓楼の「姉さまたち」のことだ。幼い著者は飽きもせず髪結い屋さんへばりついて女郎衆の髪が出来上がるのを眺めていたという。「あの村や町内の風景はどこかに消えた…みんなみんな、無常の日の仏さまになってしまい、向こうへ行ってしまった」(『おこげのお握り』)というつぶやきがいつまでも心に響いて止まないのである。(N)

◆ 1800円・四六判・221頁・弦書房・福岡・202405刊・ISBN9784863292857

『樺太・紙の記念館』にむけて—記憶を歴史に— ●工藤信彦 著



日露戦争以後、日本は樺太（サハリン）の南半分を領土として保持していました。しかしそれは太平洋戦争終戦間際のソ連の参戦によって失われることになり、そこに暮らしてきた日本人の多くは引揚げることとなりました。そうした樺太引揚者のための団体として作られたのが全国樺太連盟（通称：樺連）であり、その機関誌として発行されていたのが『樺連情報』です。

本書はその編集を1999年から2014年まで担当していた工藤信彦氏の仕事をまとめたものです。氏は『樺連情報』を「紙の記念館」として、語る人の少なくなってゆく樺太での暮らしや文化・地名に至るまで記録に残す構想を抱いていました。

本書は工藤氏自身が『樺連情報』に書いた記事、編集後記である『余言抄』、そして編集退任後の

文章の三部から成っています。『樺連情報』に執筆した記事からは、往時の樺太を伝えてくれる文章もありますし、読者に樺太での個人的な経験なども投稿してくれるよう依頼した文章もあります。

一方『余言抄』では日本統治下の樺太の生活状況を示す記録に不明なことが多いことや、企画した記事の書き手が見つからないなど、紙面構成上の苦労も垣間見えます。「紙の記念館」構想では、公式の記録に残りにくい記憶を収集することも重要なことでした。氏は構想が必ずしも順調に行かずとも熱意は常に持ち続けていました。本書は樺太に限らず、読者ひとりひとりに歴史を記録することの意義も問いかけてきます。（副隊長）

◆2500円・四六判・307頁・石風社・福岡・202405刊・ISBN9784883443260

『クラブ・カフカへようこそ 本田敬幸短編集1』 ●本田敬幸 著



中年以降の男は、時には孤独に親しむべきである。そうでないと、俗っぽくなっていけないから。中村文夫は妻と高校生の娘がいる四十六歳のサラリーマン。家族とも距離が出来て、期せずして孤独を感じていたが、ある日、職場の仲間と公園の夜桜を見に行った時、自分と瓜二つの男に遭遇する。そんな怪しい出来事を忘れかけた頃、ふらりと入った書店で今度はその男に話しかけられる。「中村さん、カフカを知っていますか?」「私はあなたです。私も中村文夫です。紛らわしいなら、私のことはNと呼んでください」と言いつつ、Nは書棚からカフカの『審判』を抜き出し、『変身』や『城』について独自の見解を語る。夜の街で偶然見つけた「クラブ・カフカ」という店で中村は奇妙な人々と知り合い、ついにNとも再会する

が……。表題作を含む7編の短編と1編の詩から成る短編集。芥川龍之介へのオマージュとして「隠された日本」を天狗やキツネ、座敷わらしの村などになぞらえて語る「日本 (Nippon)」も読み応えがある。著者は幼少期から腎臓病を患い、十代から人工透析治療を受けながら高校の数学教師となるが、勤務と治療の両立が難しくやむなく退職。治療に専念するが、2020年に57歳で永眠。亡くなる直前にノートに書き溜めた小説があることを知った兄が約束を果たし出版された作品集。読書、創作のみならずクラシック音楽も愛し、絵画でも知事賞を受けた多才な著者の人生観が詰まっている。(Y)

◆1500円・四六判・262頁・上毛新聞社・群馬・202404刊・ISBN9784863523425

地小出版
流通センター

ジャンル別
新刊案内

2024年5月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内の出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆編集部が本気で選んだ 仙台のおいしい店 2024 -S-style kappo 特別編集 プレスアート編 280mm×210mm 143頁 1

800円 プレスアート [宮城] 978-4-503-23094-2 24/05

◆S-style 2024年6月 vol. 714 プレスアート編 280mm×210mm 112頁 600円 プレスアート [宮城] 978-4-503-23095-9 24/05

◆GREEN REPORT 533

2024年5月号 廣瀬 仁編 A4 189頁 2800円 地域環境ネット [埼玉] 978-4-909864-65-9 24/05

◆かまくら春秋 No. 648 2024年4月号 伊藤 玄二郎編 B6 107頁 327円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0897-4 24/04

◆かまくら春秋 No. 647 2024年3月号 伊藤 玄二郎編 B6 107頁 327円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0895-0 24/03

◆かまくら春秋 No. 65048 2024年6月号 伊藤 玄二郎編 B6 107頁 327円 かまく

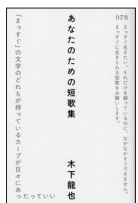
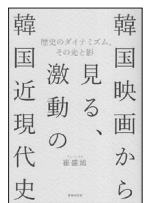
売行良好書

期間：2024年5月15日～6月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

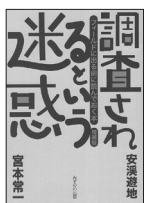
【出荷センター扱い】

- (1)『中村哲 思索と行動 「ペシヤワール会報」現地活動報告集成「下」2002～2019』2700円・忘羊社
- (2)『すこし広くなった「那覇の市場で古本屋」それから』1800円・ボーダーインク
- (3)『韓国映画から見る、激動の韓国近現代史』2200円・書肆侃侃房
- (4)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社
- (5)『満腹の惑星』2100円・弦書房
- (6)『ヤジと公安警察』1100円・寿郎社
- (7)『たまののののちゃん』1100円・蜻文庫
- (8)『出雲と蘇我王国』2200円・大元出版
- (9)『特急やくも写真集』2500円・今井出版
- (10)『谷根千の編集後記』1600円・月兎舎
- (11)『バンクの系譜学』2600円・書肆侃侃房
- (12)『よみきかせのきほん』750円・東京子ども図書館
- (13)『韓国の今を映す、12人の輝く瞬間』2200円・クオン



【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

- (1)『調査されるという迷惑 増補版』1500円・みずのわ出版
- (2)『人類学者のレンズ』1600円・西日本新聞社
- (3)『「砂の器」と木次線』1800円・ハーベスト出版
- (4)『「ニュータウン」再生のための空き家対策とその有効活用』3000円・大阪公立大学出版会
- (5)『川と向き合う江戸時代』1200円・たけしま出版
- (6)『汚れた年月』2800円・エディションイレーヌ
- (7)『「守礼の光」が見た琉球』2400円・ボーダーインク
- (8)『沖縄苗字のヒミツ 増補改訂』1400円・ボーダーインク
- (9)『新版 奥多摩登山詳細図 西編』900円・吉備人出版
- (10)『シソンヌじろの自分探し』1400円・東奥日報社
- (11)『信州の絶景はどのようにできたのか』1600円・しなのき書房
- (12)『山梨東部の山登山詳細図(東編) 権現山 扇山 倉岳山 高柄山』900円・吉備人出版
- (13)『福本清三 無心 ある軌られ役の生涯』3000円・とっても便利出版部
- (14)『ジソウのお仕事 データ改訂版』1800円・フェミックス
- (15)『世界港湾史』3600円・亜璃西社



以下ホームページ等でも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧ツイッター) 公式アカウント : @local_small

トピックス — ★★★

▼NPO法人原子力資料情報室の伴英幸(ばん・ひでゆき)・共同代表(72)が、かねてより病氣療養中のところ、この6月10日に逝去されたとのことです。謹んで哀悼の意を表します。原子力資料情報室は【一緒に起きたら逃げられない?地震 原発事故 津波】【原発事故がおきたらどうする?!子どもを守るQ&A】などの冊子を多く刊行しており、古くから弊社とお付き合いがあります。共同通信によると伴氏の略歴として「早稲田大卒業後、チェルノブイリ原発事故をきっかけに、脱原発法制定運動事務局などを経て1990年、原子力資料情報室スタッフに。95年に事務局長、98年から共同代表。東京電力福島第1原発事故への対応や、その後の国の原子力政策に対し、批判的な立場から発言した」と紹介されています。

▼訃報が続きます。出版社「パピルス」を主催した小田光雄氏が6月8日、食道がんのため永眠されました。衷心よりお悔やみを申し上げます。ご自身のブログ「出版状況クロニクル」を終えることになり残念、というコメントと共に闘病生活にはいる旨のご連絡をいただいたのが3月上旬のことだったと思います。現在、小田氏のブログには以下のようにご家族によるコメントが掲載されています。「小田光雄は、2024年6月8日、病氣のため永眠しました。享年73。葬儀は近親者のみにて執り行いました。戦後社会論をライフワークとした小田光雄の出発点は『く郊外』の誕生と死』であり、その延長線上で、出版・古書・図書館など多岐にわたる分野を論じ、多くの著書を残しました。また、書店や出版社パピルスを経営し、自ら翻訳も手がけました。…2019年には『古本屋散策』で第29回Bunkamuraドゥマゴ文学賞を受賞いたしました。故人が書き残した原稿があるため、本ブログはしばらくの間、更新を続けます。皆様には生前のご厚誼に心から感謝いたしますとともに、ここに謹んでお報せ申し上げます。2024年6月12日家族一同。」

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

ジュンク堂書店

淳久堂書店

池袋でああなたのふるさとに帰ってみませんか?

2階「ふるさとの棚」では、地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、皆様のお越しをお待ちしております。

池袋本店

営業時間：午前10時～午後10時

〒171-0022
東京都豊島区南池袋 2-15-5
TEL 03-5956-6111
<http://www.junkudo.co.jp>